

# 単位互換による本学と他大学との連携

今日の社会では学習・研究の分野では学際化が進み、人々の価値観も多様化しつつあるといえます。同時に学生の関心・意欲・ニーズなども単一の大学の範囲を超えて拡大しつつあるのではないのでしょうか。

本学の教育研究上の新しい取組みの一つとして、青森市内大学間での単位互換制度があります。単位を互換する目的は主に、相互交流・協力の促進と教育課程・学習の充実にあると考えられ、制度としては、互換協定を結ぶ他の大学での修得単位は、その学生が所属する大学・短大の単位として認定されるというものです。

「自分の大学では学べない領域を学習できる」、「幅広い視野を培う」、「新たな学習意欲を喚起する」、「他大学の学生との意見交換や交流が可能」などが成果やメリットとして考えられます。

本学と青森公立大学との間では制度の運用が始まり、筆者の科目(グローバル社会と文化)でも履修者を歓迎しました。さらには青森中央学院大学・青森中央短期大学との連携も開始されています。今後は、「サークルや部活の連合」、「ボランティア活動の共同開催」、「図書館相互利用」、「各種イベントの合同企画運営」といった形でも、連携・交流がさらに発展的に進んでいきますことを期待しています。



栄養学科 准教授 浅田 豊(あさだ ゆたか)

## 教員紹介

### チャレンジしながら楽しく学ぶ 看護の思いを伝えたい



私が担当している「在宅看護論」は、利用者さんの生活の場で看護を展開するという新しい学問です。利用者さんの生活の中に入り込んで看護するという事は、患者さんのみならずご家族の人生に自分に関わるという難しいものです。実は、その学問を教えている私自身、大学に入学した当時は看護の「か」の字も知らず、生活体験が少ない無知な人間だったんです。

当然、実習で病院などに行くことは不安で仕方ありませんでした。ただ、その私を変えるきっかけになったのは、患者さんに感謝されたこと。その喜びが楽しさへ、そして経験となり改めて看護の奥深さを知ることとなりました。そして、熱意が溢れる先生との出会いでした。

本学開学から勤務していますが、一人一人の学生との交流を大切にしながら、これからも私の思いを多くの学生に伝えられればと願っております。

看護学科 准教授 細川 満子(ほそかわ みつこ)

## 職員紹介

### 「教員協働」による研究業務の実現を目指して

私はもともと、教育機関における勤務に憧れを持っておりました。その念願が叶い、本学への勤務が実現いたしました。現在担当させていただいている主な業務は、先生方の研究成果を基にした特許等、知的財産権の創出に関し、その手続きのサポートと、研究の成果を外部へ積極的に発信する活動である展示会出展等、産学官連携活動から派生する共同研究、受託研究契約手続きにおける本学の窓口業務、そして各種研究費の執行管理です。

当初は「知的財産って何？」からのスタートでしたが、先生方、そして上司や同僚の方々の御助力のおかげで、現在は全国大学の産学官連携実務者が集まる全国的なセッションにおいて講演を務めさせていただくまでに経験を積むことができました。

時には先生方の円滑な研究活動を支える黒子として、また時には自分が先頭に立って外部機関の方々と交渉を行い、知財活用のための各種企画立案を行う…。文字通り「教職協働」の概念を体現すべく、今後も邁進して参りたいと思います。

地域連携推進課 主事 寺田 泰二(てらだ たいじ)

